

2020（令和2）年度学校経営方針

町田市立南つくし野小学校 校長 武藤 雄丈

世界的な新型コロナウイルス禍という逆境の中、南つくし野小学校41年目の教育活動がスタートします。そのような先行きが不透明な中で、新学習指導要領の完全実施という教育活動の変革の年、校務支援ソフトC4thの全面実施という業務改革の年、校舎の中規模改修という施設利用の制限を受ける年でもあります。今までこうだったから、ということでは対応できず、今の状況で何をなすのが最良なのかを考えながら歩いていく一年になります。教職員の知恵と力を結集し、この難局を乗り越えていかななくてはなりません。

町田市教育プラン2019～2023の2年目。小中学校では、「夢や志をもち、未来を切り拓く町田っ子を育てる。」ことを最大の目標としつつ、「生涯にわたって自ら学び、互いに支え合うことができる地域社会を築く。」ことを念頭に、教育活動に努めることが求められます。ここ数年、町田市の公立学校として、学力・体力向上の推進、ICTを有効活用した教育の推進と校務改善、えいごのまちだ推進事業、一人一人のニーズに対応した特別支援教育の充実など、次々と新しい風が吹き込んできています。しかし、新しいまちとも事業や、地域協働の学校作りにも見られるように、やはり、根本となるのは、安心・安全の拠点となる公立学校の姿です。そのためにも、市民の信頼を裏切らないよう、学校の服務事故ゼロを目指し、子どもたちが安心して学んだり遊んだりすることができる、保護者・地域の方々が、安心して子どもを任せることのできる学校を確立していくことが責務となります。

学校に求められることが多くなり、新しい取り組みが増えている現在、教職員のストレスもたまります。そのストレスから知らず知らずのうちに職場にネガティブ発言が増えると、組織は停滞し力を失います。それは学級と同様です。また、組織だからこそ、今までとルールを変えたら、それを着実に履行することが求められます。辛いことがあったとしても組織として力を合わせ、支え合い、気持ちよく仕事に取り組んでいきましょう。

1. 学校教育目標、基本方針

◆学校教育目標◆

町田市教育プランを踏まえ、人権尊重・生命尊重の精神のもと、健康で知性と感性に富み、心豊かでたくましい児童の育成を目指し、次の教育目標を掲げる。

- 元気な子（自分から心と体を鍛え、課題に取り組む子「実践力」）
- 考える子（すすんで学び、考えながら課題に取り組む子「問題解決力」）
- 思いやりのある子（やさしい心をもち、自分も他の人も大切に作る子「人間関係形成力」）
- やりとげる子（諦めずに最後まで努力し続ける子「忍耐力」）

◆学校教育目標を達成するための基本方針◆

- ア 心身ともに健やかな児童の育成のため体力向上推進プランの実施や「一校一取組」運動を充実させるとともに、体幹を鍛え、体力の向上・健康の維持増進を図る教育活動を推進する。
 - ・進んで運動し、生涯に渡って体力向上を目指す児童の育成に努め、外遊びの励行、運動する機会と場所の確保、統一体力テストの結果を活用した授業の充実を図る。
- イ 「考える子」の育成のため、自立的な学びと協働的な学びを教科横断的に設定して、主体的・対話的で深い学びを実現する教育活動を推進する。
 - ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力、表現力と共に、学びに向かう力・人間性を育てていく。
- ウ 「思いやりのある子」の育成のため、人権の意義・内容や重要性について理解し、自他のよさを認め、共生の心を育み、いじめ防止に努め、人権教育を推進する。
 - ・生命尊重、あいさつ・言葉遣い、ルール・マナーに係る内容に重点を置いて規範教育を推進し、道徳教育を充実させて思いやりの心を育み、特別活動で実践力・社会性を育成する。
- エ 自立心の醸成のため、めあてをもってやりとげる活動を重視し、特別活動や総合的な学習の時間の充実を図り、勤労観・職業観を育むキャリア教育を推進する。
 - ・家庭や地域と連携・協力しながら、勤労観・職業観など将来の生活を見通して、自立的に生きるための基盤となる能力や態度を育成する。
- オ 教職員が一致団結して共通理解を図り、報告・連絡・相談の意識を徹底し組織の活性化を図る。
 - ・教職員同士が互いに切磋琢磨して資質向上を目指し、個々が力を発揮できるようにする。

2. 教育活動の重点課題と具体的な方策〔町田市教育プランの具現化を根底に〕

<p>学習指導 研究・研修</p>	<p>☆「えいごのまちだ」研究指定校として、外国語・外国語活動への積極的対応 (T1としての指導力の向上、教科書・副読本・その他の教材の活用、評価の理解と実際、低学年での活動事例開発、校内の外国語環境整、MEPS・ALT・教育機器の活用) ☆伝える力(自分の考えをもち分かりやすく説明する力)の育成、発表活動を意識した指導計画 ☆ICT機器とアプリの積極的活用(プロジェクター、ホワイトボード、タブレット、クラウド等) ⇒ そのために必要な研修・研究の推進(「伝える」だけでなく、その前段階も含めて) ・わかる授業・楽しい授業の創造と、東京ベーシックドリルをベースにした反復学習の取組、「学習の五つの約束」(学習準備、忘れ物ゼロ、よい姿勢、聴く・考える・手を挙げる、話形の活用)の徹底、等の継続的な取組による、確かな学力の定着。 ・特別の教科道徳の指導、別葉の活用と評価の向上に向けた学校体制の整備 ・プログラミング教育の導入(算数・理科での実施、まずはスクリーン、中学年からプログラミング) ・読書活動の充実 ⇒ 読書タイム、読書旬間、教室蔵書整備、南つく各学年の20冊活用 ・体力の向上のための体育活動の見直し(狭くなる校庭への対応、怪我の多さの克服、等) ・学年指導体制の徹底 ⇒ 学年主任のリード、情報共有、共通歩調、5年以上で交換授業</p>
<p>生活指導</p>	<p>☆感染症対策の徹底(3k対策、うがい・咳エチケット・検温の意識の意識と行動、換気、) ☆いじめ・不登校等の問題の早期発見、早期対応(専科・SCとの連携、組織的な対応) [心のアンケートを活用した指導、校内報連相の徹底、家庭連絡・保護者連携の徹底 ・児童の安全確保の充実、特に交通安全教育の徹底、多様な避難訓練の推進 [安全教育プログラムの活用、SNS対応、月に一度の施設安全確認、中規模改修対応] ・各種指導の約束の徹底、全職員で全児童を指導する教職員の意識 ・人が集まった場での態度の涵養(集合、挨拶、話を聞く態度、歌、退場) ・いろいろな人との人間関係構築力の育成 ⇒ 毎年・全学年でのクラス替えの継続</p>
<p>特別活動</p>	<p>☆成功体験、成就体験を根底にした、自尊感情を高める活動の実践 (運動会、展覧会、南つくお祭り、学年・学級での発表会等、活動の数と成果の検討) ・委員会や児童集会の工夫と充実(委員の活動の精選と、委員会活動の計画的報告・発表) ・中規模改修に対応した体育行事の工夫、「うたひびくまちだ」を体現する合唱団活動の工夫 ・各種コンクールへの積極的チャレンジ(機会の提供と推奨)</p>
<p>学校運営</p>	<p>☆C4th完全実施への確実な対応(最初は大変でも使いながら慣れていく) ☆緊急事態への臨機応変な対応と保護者との連携の推進(保護者会、HP・メール活用、家庭確認) ・特別支援教育の推進、特別支援担任・特別支援教室専門員・心理士・SCとの連携 ⇒ 個別の指導計画についての正しい理解と実施、打合せの充実 ・学校のマネジメントの確認・徹底、今までの「あたりまえ」の見直し、新校務分掌組織の検証 ・主幹教諭や主任教諭を核とした学校運営力向上、課題研修や若手研修による教員全体の指導力向上 ・すぎな学級の独立性と通常級との交流のバランス追究、サポートルーム新拠点校との連携 ・給食費公会計化、来年度私費会計体制変更への準備と、本年度の会計事故防止の徹底</p>

3. 地域、保護者、行政との連携

- ・つくし野中校区の小中学校との共通スタンダードの定着を目指した小中9年間を見通した指導
- ・保護者との連絡を密に(何かあればすぐに電話連絡、2日続けて休んだら電話、3日で家庭訪問)
- ・新まちとも(放課後子ども教室)、放課後英語教室、等の、市の新事業への理解と受入と協力
- ・地域の教育力を生かした活動〔自然環境、施設、人材等、VCとの連携〕
- ・地域の方との交流活動⇒何をしていただけか、だけでなく、何ができるかを考えた連携へ
 地域行事への参加、効果的な広報活動で学校の活動紹介

4. 教職員のサービスと健康管理

- ・教育公務員として自覚をもち、サービス事故防止(個人情報漏えい、体罰、他)を徹底する。
- ・教師は子供に寄り添い、目をかけ手をかけ心をかけて指導することを忘れない。怒りをコントロールし、心に届く言葉、接し方など、指導の工夫を追究する。
- ・多忙感溢れる中で業務を進めるために、職員がお互いに支え合い、助け合い、協働していく。報連相をしっかりと行い、互いにリスペクトし合い、教育目標達成のため手を携えて進む。
- ・時間をかければかけるほど良い仕事ができるだろうが、それで身体を壊しては始まらない。勤務時間を無限と考えず、時間を決めてしっかり帰る。校務改善にICT機器を有効活用する。